

第 44 回釜ヶ崎越冬闘争への協力要請

今年の秋は大荒れに荒れた気象状況に影響され、暑かったり寒かったりと気温差の激しい体調管理の難しい秋でした。12月に入り凍える冬も目前となり、越冬闘争の時期を迎えることとなりました。

昨年から開始された「有識者懇談会」は西成の各界人々との議論を深め「人を呼び込む街作り」「西成の特徴を生かした街作り」等が議論されてきました。そして平成 25 年の区予算にも反映されはじめました。しかし、中心となる軸が「医療・福祉」「子育て支援」「治安の改善」「不法投棄の取り締まり」となって肝心の「就労」の問題が背景に押しやられている感じです。構想で言う「短期集中的な対策」(2013 年 9 月)を見ても、「釜ヶ崎と就労」に関する事業は 14 事業中 1 事業のみであり、それも「高齢単身者生活保護」条件付けがされているように、野宿・失業者対策という就労にかかわる事業は全く議論されていません。

一方では、生活保護受給者の増大に対して、増大の本当の原因には触れずに、保護費全体の削減を目的とした施策が進められ、申請と同時の就労指導のように極めて機械的に厳しくなり、一旦上がった生活保護からの脱落者を多くつくりだしています。

ハローワーク(民間労働市場)しか出口のない就労指導の強化は依然として変わらず、民間労働市場から排除されてきた者たちにとっては高いハードルとなり、大きなプレッシャーとなっています。

こうした生活保護の切り下げ、締め付け強化、強引な就労指導は、生活保護者＝怠け者、社会悪という意識を植え付け、『自己責任論』で国・自治体一体となった施策を正当化しようとしています。それは、社会の中に生保受給者や、野宿をせざるを得ない人たちを嫌悪し、攻撃するひとびとを作り出します。『自己責任論』が大手をふるって登場し始めると野宿者への実際の襲撃も増え、わけても若者に反映します。

昨年も 10 月 13 日～14 日未明にかけて JR 大阪駅周辺で、40～80 代の野宿生活の男性 5 人が相次いで襲われ、顔を踏みつけるように蹴り続けられるなどし、富松国春さん(67)が外傷性くも膜下出血で亡くなり、他の人たちもケガを負わされました。

今年も、私たちは越冬闘争で野宿をせざるを得ないなかまたちを餓死・凍死から守り、襲撃から守り、日雇・下層労働者の結束を固めて、施策の変動に翻弄されるなかまたちの未来を切り開いてゆく闘いをしたいと思います。

今年で 44 回目を迎える釜ヶ崎越冬闘争は全国の心ある皆様のご支援で支えられてきました。今年の越冬闘争も、連日の炊き出し、夜回り、行政への要望行動などおこないます。

今年も、米、調味料、毛布、防寒着などの物資のご支援とともに、資金カンパのご協力をお願いします。

また、2013 年 12 月 28 日から 2014 年 1 月 7 日までの越冬期間中の現場でのご支援もよろしくお願いいたします。

■ 資金で協力

越冬闘争では、毎年 70 万～80 万円の資金が必要となります。現在も、越冬実行委員会では、資金集めに奔走しております。厳しさを増すこの経済状況にあって、心苦しい限りではありますが、釜ヶ崎の運動・取り組みに関心を寄せる多くのみなさまに、資金協力をお願いしたく思います。

【振込先】 ①みずほ銀行 難波支店 普通口座 1387094

釜ヶ崎実行委員会 代表 山田 実

②ゆうちょ銀行 記号 141 番号 33722521

【他金融機関から振り込みの場合】③ゆうちょ銀行 店番 418 普通預金 3372252

④郵便振替口座 00960-4-108331

②③④は、名義：釜ヶ崎実行委員会

■ 物資で協力

越冬闘争では、次のような物資が必要です。みなさまのご協力をお願いいたします。

- 毎日の炊き出しに使う、米、もち米、お米券、調味料、野菜、その他の食料
- 寝場所、医療パトロールで使う、布団（敷布団、掛布団）、毛布類、寝袋
- 冬の寒さをしのぐための、衣類（成人男性用で、防寒着、カイロ、など）
- その他、石鹼、タオルなどの日常生活用品

【物資の送付先】 〒557-0004大阪市西成区萩之茶屋 1-9-7
第44回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会（代表 山田 実）

電話：06-6632-4273

第 44 回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会